

令和5年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1. 学習指導： ICTを効果的に活用するとともに、グローバル社会で求められる主体性や表現力を育成する。	① ICTの効果的な活用とともに、生徒の論理的な思考力や批判的な思考力を育成するための授業の工夫を促し、研究授業等の機会を設けることで教員間で共有する。	教務課 各教科	R4年度学校評価生徒アンケートにおいて「授業を通して論理的な思考力が高まった」と答えた生徒が46.2%とR3年度(44.1%)より、上昇しているが、まだ十分とは言えない。また、STEAM教育の理念にもとづき、文理の枠を超えて多面的・多角的にものごとを吟味する思考力を育成するための授業の工夫に取り組む必要がある。	【成果指標】 生徒が、ものごとを様々な視点・立場から吟味しながら論理的に考えることができる。	「授業を通して思考力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満 昨年度：46.2%	C以下の場合には、結果を分析し、改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (生徒による授業評価)
	② 学習や部活動・学校行事などの機会を活用して、「振り返り」を導入することによって、生徒一人ひとりが自らの課題を設定し、克服しようとする力を育む。	教務課 各学年 各教科	真面目で素直な生徒が多い。その一方で、学習や学校生活の場面で教師等の指示を待つ受け身な生徒も多いため、自ら課題を設定し見直しをもって改善に取り組む力を高める必要がある。	【成果指標】 生徒が、学校生活において、何をすべきかを自分で考え主体的に行動している。	「学校生活において、何をすべきかを自分で考え主体的に行動している」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：80%以上 B：65%以上 C：50%以上 D：50%未満 新しい質問項目	C以下の場合には改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価アンケート)
	③ 適切な発表技術等を生徒に教えるとともに、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場を授業や学校行事で設定する。	教務課 各学年 各教科	R4年度学校評価生徒アンケートにおいて「授業を通して表現力が高まった」と答えた生徒が43.2%とR3年度(41.3%)より、上昇しているが、まだ十分とは言えない。	【成果指標】 生徒が、必要な場面で積極的に発言・発表することができる。	「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満 昨年度：41.6%	C以下の場合には改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (生徒による授業評価)
	④ 主体的な学習の基盤となる豊かな知識と思考力・判断力を身につけるため、探究活動との連携や図書委員会の活動を通して図書館利用の促進を図り、生徒の読書活動を推進する。	図書課 各教科 各学年 各部顧問	R4年度はR3年度と比べ、約2,500冊の貸出減となった(R3:4,635冊→R4:2,069冊)。原因の一つとして授業での活用が減少したことがあげられる(R4:44時間→R3:81時間)。授業やその他の活動で図書館利用を提案する働きかけも不十分であった。	【成果指標】 図書の貸し出し冊数が増加している。	図書の貸し出し冊数が A：4,000冊以上 B：3,000冊以上 C：2,000冊以上 D：2,000冊未満 昨年度：2,069冊	C以下の場合には改善策を検討する。	7月・12月に調査。

令和5年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 進学指導： 生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	① 将来にむけて、一人一人のキャリアビジョンの発達を促すため、学部学科研究、職業講話などを通し、文理選択や学部学科選択、将来について広く考える機会を設け、系統だったキャリア教育を適切な時期に適切なかたちで行う。	進路指導課 各学年	クリエイティブ人材企業説明会やインターンシップ、学部学科説明会など、キャリアを考える機会は設けられているものの、より効果的で充実したものとして生徒のキャリアビジョン形成の機会とするためには、系統だったキャリア教育として整理し・位置づける必要がある。	【成果指標】 将来について、キャリアビジョンを有する生徒数の割合。	全学年、「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：75%以上 B：60%以上 C：65%以上 D：60%未満 新規の指標	C以下の場合 は、結果を分析し、改善策を検討する。	生徒によるアンケート調査
	② 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談をとおして、生徒の進路に関して保護者と十分情報交換を行い、信頼関係を築く。 特に3年生の保護者には、5月及び8月に進路説明会を行い、改革された入試制度について、本校の実績を踏まえて説明する。	進路指導課 各学年	コロナ禍のため、進路説明会等での情報提供がオンラインによる配信のみと制限されてきたが、今年度は対面式での説明会等も再開することができるような見込みが立ってきた。 大きく変化している近年の入試制度改革の動向や教育改革について、保護者にも理解を求め、生徒・教員・保護者が三位一体となって進路実現に向けた取り組みを推進する必要性が高まっている。	【満足度指標】 保護者が満足できる進路指導、情報提供がなされている。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 昨年度 よ く：17.8% おおむね：63.7% 合 計：81.5%	C以下の場合 は、結果を分析し、改善策を検討する。	7月・12月に 調査。 保護者によるアンケート
	③ 担任の生徒面談や、学年集会・進路講演会・進路説明会等の各種進路行事を有効に活用し、生徒の意欲を高めるとともに、具体的に取り組む課題を明確にし、共有する。 難関大志望者に対し、2年次から説明会を実施し集団づくりを行う。	進路指導課 各学年	担任は進路志望調査や学習時間調査、試験結果等に基づき面談を重ね、生徒の進路意識を高めている。 高い志望を掲げる生徒は多く、第一志望を貫く生徒も増えているものの、その実現のための具体的な取り組みが不十分な生徒が多く見られる。	【成果指標】 難関大（北大、東北大、東大、名大、京大、阪大、九大、東工大、一橋大、神大、医学部医学科）または金大が第1志望である生徒数の割合。	①3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 昨年度：62.0% ②3年生の9月段階で、生徒の学習時間（授業以外）の平均が A：週45時間以上（平日5、休日10時間換算） B：週34時間以上（平日4、休日7時間換算） C：週27時間以上（平日3、休日6時間換算） D：週27時間未満 新規の指標	C以下の場合 は、結果を分析し、改善策を検討する。	3年9月の進路志望調査、学習時間調査
	④ 生徒個々の志望や学力にあわせた、各大学に応じた入試対策を補習や個別添削指導を行い、進路実績の向上を図る。 近年入試で求められる情報処理能力や表現力、思考力を高める授業へと各教員が改善する。	進路指導課 教務課 3学年 各教科	昨年度の現役合格者は金大64名（既卒含70名）、難関大は19名（既卒含28名）であった。 現役での生徒の進路希望の実現は、目標に達していない状況である。	【成果指標】 難関大と金大の現役合格者数。	現役合格者数が 金大80以上、難関大30以上 A：両方を満たす B：どちらか一方を満たす 金大70以上、難関大20以上 C：両方またはどちらか一方を満たす D：両方を満たさない	C以下の場合 は、結果を分析し、改善策を検討する。	年度末に集計。

令和5年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒指導・部活動：人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。	② 勉強と部活動の両立を図るために効率的な活動を追求し、生徒の学習時間の確保や、部員が勉強に主体的に取り組む姿勢をもつような指導を工夫するよう呼びかける。また、部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。	生徒課 各部顧問	おおむね勉強と部活動が両立できている生徒は多い。一方で、時間の使い方がうまくいかず、どちらもが中途半端になり思い悩む生徒も少なくない。	【成果指標】 生徒自身が勉強と部活動の両立ができています。	「勉強と部活動の両立ができています」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：75.2%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価生徒アンケート)
	③ 生徒が自主的に挨拶を行うよう、生徒会等の挨拶運動を継続するとともに、教職員自らが積極的に挨拶を行うことで範を示し、教職員、生徒の自覚をさらに高める。	生徒課 各学年 各部顧問	校内での挨拶、会釈等は徐々に増えているが、積極的に挨拶する生徒はまだ少ない。	【成果指標】 生徒が日常の挨拶をしっかりと行っている。	「挨拶はしっかりと行っている」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：60%以上 B：40%以上 C：20%以上 D：20%未満 昨年度：42.4%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価生徒アンケート)
	③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの予防や、早期発見を行う。	生徒課 教育相談室 保健環境課 各学年 全教職員	日頃の声かけ・目配り・気配りに重点を置き、生徒の様子の変化や問題の早期発見に努めている。相談室や保健室との連携、予防のための取り組みと適切な対応を行っている。	【成果指標】 本校のいじめ予防のための取り組みは、十分成果を上げている。	「いじめ予防や早期発見、早期対策に取り組んでいる」の問いに対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：95%以上 B：90%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度：95.7%	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価教職員アンケート)
	④ 日頃からの生徒観察により、気づいたことを関係者が素早く共有することを全教職員が心がける。またチーム学校として連携し、的確な対応を組織的に行うシステムを構築するとともに外部機関と連携し、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	教育相談室 保健環境課 各学年	様々な悩みや心身の問題を抱えながら学校生活を送る生徒が増加している。学校、家庭間の連携はもとより、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、発達障害アドバイザー及び外部機関と連携し、予防や早期対応に組織的に努める必要がある。	【努力指標】 不安やストレスを抱える生徒に対し、教職員全体の共通理解に基づいた支援体制を確立する。	「担任・教育相談室・保健室等と情報を共有し、問題(悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めているか」の問いに対して「よくあてはまる」と答える教員が A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満 昨年度：48.6% 「おおむねよくあてはまる」を加えると98.6% (R3 97.1%)	C以下の場合は改善策を検討する。	7月・12月に調査。 (学校評価教員アンケート)

令和5年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
<p>4 学校組織： 業務の効率化を進め、高い専門性と広い見識に基づいた協働的な教育活動を追求する。</p>	<p>定時退庁日等の設定や会議の効率化を図るとともに、タイムマネジメントの意識を高めるとともに、ワークライフバランスを推進することで、教育活動の質を高める。 STEAM教育や制服検討、土曜補習改革などのプロジェクトチームの立ち上げにより、自己研鑽や協働の機運を醸成する。</p>	<p>全教職員</p>	<p>きめ細かい学習指導や進路指導、生徒指導、部活動指導など教員が担う業務が多様であることに加え、新たな教育課題により、さらに多忙化は進んでいるため、時間外勤務は決して少ない。 また、自らの教科指導の専門性を高める研究や与えられたタスクには真摯に取り組む教員が多い一方で、もっと社会の変化に目を向けたり、教科や部署を超えた協働に挑戦する教員が増えることが求められる。</p>	<p>【努力指標】 業務の効率化に努め、タイムマネジメントを意識して業務に取り組んでいる。 【努力指標】 社会の変化を意識して、自己研鑽に励んでいる。</p>	<p>①「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：84.3% ②「社会の変化を意識して、新しい教育に意欲的に挑戦している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 新しい質問項目 (参考) 昨年度は「本校では社会の変化に合わせて、教育活動の改善が行われている」 昨年度：87.1%</p>	<p>C以下の場合には改善策を検討する。</p>	<p>7月・12月に調査。 (学校評価教員アンケート)</p>